

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300327		
法人名	特定非営利活動法人ともにあゆむ会		
事業所名	グループホーム ぶどう苑(ユニット2)		
所在地	岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372300327&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各委員会を設置しており(食事検討委員会、レク委員会)、月に一度の会議にて、色々とアイデアを出し合い、様々なイベントを実施している。その他にも、各教室(習字教室、陶芸教室、カラオケ教室)、季節に合ったイベント(流しそうめん、すいか割り、芋煮会)、地域の園児との交流等、利用者様に楽しんで頂いているイベントを行っている。また、職員には介護技術向上のため、資格取得を奨励し勉強会の実施や歯科医師を招いての口腔ケア等の技術向上に力を入れている。さらに、利用者様およびご家族様の安心・安全の取り組みとして避難誘導訓練を定期的実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三委員会(食事検討・レクリエーション・レベルアップ委員会)が機能して、ホームの運営に貢献している。ボランティアの講師が書道、郷土料理の指導をしている。マッサージ師が週2回来苑してマッサージと機能向上のアドバイスをしている。理事長の強い願いで、天気の良い日は1日1回外に出て外気に触れる機会を作っている。フェンスでブドウを栽培しており、この秋は収穫が多く、来苑した方にもご馳走をした。経営者と職員の信頼関係がよく図られており成長が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフ全員で考え話し合い、それを共有できるよう見えやすい場所に掲示して実践している。	開所時の理念を研修を受けた職員の提案で、現在の理念「利用者の気持ちに寄り添って、生活を共にする」に見直しをした。月1回スタッフ会議、主任会議を開催して、利用者の状態等の情報共有をして、よりよいケアに役立っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑の行事に地域の方を招待し、参加して頂いている。また、近所のお祭りにも製作の段階から参加し、交流を図っている。	8月の行灯祭りには、利用者も制作から関わり祭りには山車を引いて参加をした。区長さんの計らいでホームの広報を回覧している。中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室を開き、地域の方々に多く参加して頂けるよう、チラシやポスター等で呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事と運営推進会議を同時に開催するなど、直接活動を見て頂き、理解を深めて頂けるよう努めている。	2ヶ月に1回開催し、9月の会議では消防署から防災、避難等の指導を受け、利用者、家族からも好評を得た。事業所の何らかの活動日に合わせ、直接見て頂くこともある。マンネリ化しないように、テーマを設けて会議を進めることも考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に色々な相談をしたりと、日常的に連絡を取り合っている。地域ケア会議にも出席し、情報交換を行っている。	保健センターで毎月1回行われる、地域ケア会議には各施設1名が参加し、情報の交換をしている。ホームとしても、生活保護2人(法人全体では4人)おり担当窓口との連絡、報告は密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はマニュアルを理解し、実践している。玄関は日中は施錠をせず、他ユニットと協力し、見守りを行い、安全を心掛けている。	身体拘束になる行為は行っていない。どうすれば回避できるかをスタッフ全員で考え検討をしている。理事長の強い想いで座りきり、寝たきりにならない方策がとられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での介助に虐待に当たる対応が無いが常に確認し、発生防止に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいるため、権利擁護に関する制度について学び、関係者とも連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に料金やサービス内容等を十分に説明し、利用者、家族に了解を得たうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している他、居室担当が日常の会話の中や、家族の来苑時に要望を聞くように心掛けている。また、要望があった場合には会議にかけ、対応している。	家族からの要望は、体調、健康管理にすることが大半で、便秘緩和に朝ヨーグルトを出して欲しい、貧血改善に服薬後プルーンを食べさせて欲しいとの要望がある。日頃から自由に意見を出せるようなコミュニケーションづくりに心がけている。利用料請求書と「ぶどう苑」通信を郵送して、近況の	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の主任会議やユニットごとの会議で職員の意見を聞く機会を設け、良いアイデアは日々の業務に取り入れるようにしている。	委員会が中心になって勉強会が開催されている。暖房が入る11～5月は特に消毒に注意している。自己評価検討にも全員が参加をしている。職員も必ず昼食後、休憩をとる体制が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	食事検討委員会、レクリエーション委員会、レベルアップ委員会等を作り、職員のやる気と意見や提案を自由に出せる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格を取得しようとしている職員には勤務シフトで考慮している。施設内外の研修、勉強会には参加できる機会を設け、参加後は、会議などで報告するなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人との交換研修を行った際に、お互いに情報交換をしている。また、祭りの招待を受け、利用者と一緒に出掛ける機会を作り、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で、本人からも困っていることや要望等を聞くように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の段階で、家族から聞き取り調査を行い、サービス利用開始後も家族と連絡を取り合い、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望がほとんどだが、空きがない場合は、併設している小規模多機能施設のサービスも勧めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事後の片付けや、配膳、おやつ作りを一緒に行ったりする中で、利用者に教えていただく事もある。また、職員の手の行き届かない所の掃除を引受けてくれる利用者もいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑された際には、談笑できる時間を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が希望した時は電話などの支援を行っている。また、大きなイベントの際にはご家族や近隣の方々に参加して頂けるよう促している。	家族、兄弟姉妹から電話がきたり、利用者から掛けることもある。月1回カラオケ同好会(ボランティア)の3人が来苑して1時間歌を楽しんでいる。居眠りする人もなく、来月は何を歌うか居室でCDを使って練習をしている方もいる。苑の夏祭りには大迫中のプラスバンド部員や家族、近所の方たち		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者は、職員が間に入り、関係作りが出来るよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により退所した場合でも、職員のお見舞いや、家族への連絡等で関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レク活動を通じ、それぞれの利用者の好きな事、得意な事を見つけ、毎日の生活に結びつけるように努力している。	利用者は手先の器用な方が多く、雑巾を縫って大迫中に贈呈した。漢字の知識が豊富な方はクイズの回答を楽しんでいる。誕生日には、ビールで乾杯したり喫煙(タバコは職員が管理)する方もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の際の聞き取り調査に加え、居室担当が中心となり、利用者との会話の中で情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い、健康状態の把握に努めると共に、毎日のレク活動は心身の状態に応じてそれぞれ対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回スタッフ会議を開き、介護計画に反映させている。また、ご家族が来苑される時に合わせ、ご家族との話し合う機会を設け、意見、要望を介護計画に反映させている。	スタッフ会議で利用者の状況把握をしている。週1回訪問歯科の診察を受け、食べることが可能になったり変化が出ている。見直しの検討会には家族の参加もあり、意見を聞く機会を多く作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入している。ノートを利用し、職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族と話し合い、その時々ニーズに柔軟に対応するようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア及び講師の方を招き、色々な教室、合同レク等を楽しむよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医との関係を継続出来るようにし、居室担当職員が情報提供書を作成している。	ほとんどの利用者が、入居前からのかかりつけ医に継続受診をしている。家族と通院する方には、日常の様子を状況提供書で医師に連絡している。看護師が同行し、医師からアドバイスをもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と管理者、職員が連絡を取り合い、利用者の状態を把握し、スムーズに看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、職員が見舞いに出掛けたり、利用者の状態を病院関係者から聴き、家族と情報交換もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期においては、家族に取り組んでいく方向であることは話をしている。職員もスタッフ会議において話し合いをしている。	契約時、医療面の必要がなければターミナルまで、ホームでの対応が可能であることを説明して、全員から同意を得ている。重度化に向けた指針を作成し、職員の研修も行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、AEDを使用した勉強会等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加しての避難訓練を実施している。運営推進委員会を通じて地域の方々にも協力を呼びかけている。	法人全体で2ヶ月に1回、9月以降は毎月避難訓練を実施している。消防署は年1～2回参加をしているが、その他は報告し、指導をもらっている。ユニットごとにも夜間を想定して訓練をしている。	利用者を避難させた居室は、枕を室外に出しておく等の合図について工夫されているが、2階の利用者(介護度が軽い)の避難に関しては、訓練を繰り返し行い万全な体制を確保することが望まれる。万一来て水、食料の備蓄を確保して欲しい。運

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などは、それぞれの利用者に合わせて声掛けを行い、オムツ交換などは利用者に配慮し、人目につかないよう気をつけている。	利用者の多くはオムツ、リハビリパンツ(夜間はパット併用)である。体調・バイタルを記入した利用者さんノートを作成して、情報の共有を図っている。家族への説明連絡にも迅速に対応が可能である。トイレ誘導の声かけは、周りが気づかないように対応されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	習字、手踊り、カラオケ、料理など、色々な教室を行い、利用者の好みで参加できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレク活動、入浴日とその日の一日の流れを強制することなく、本人の希望を聞き入れながら一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋や化粧品などは本人の希望通り家族や職員が支援している。衣類なども、季節に合わせて職員と相談しながら着たい服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜や旬なものを取り入れた料理で季節感なども楽しんで頂いている。食事の準備や片付けも無理なく、利用者が手伝いをしてくれる。	1週間分の献立は、職員が交代で作成している。大迫病院の栄養士に指導を受けている。苦手な食材は、似た食感(肉がだめな人には、車麩を使う)を使って提供している。食事は和やかに会話をしながら食べている。後片付けは進んで行き、食器洗いは得意にしている利用者が行っており、共	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や好き嫌いを把握し、体調管理には気を付けている。入浴後や、定時の水分補給以外にも声掛けをし、摂取したい利用者には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で出来る方にも声を掛け、介助の必要な方にも出来るところはしてもらいながら口腔ケアを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、定時に声掛け誘導を行い、排泄支援を行っている。	排泄チェック表により、さりげなく行われている。便秘の状態を作らないようにケアされており、トイレ使用後は職員が点検をするなど、気配り、目配りは行き届いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、便秘薬の服用、また、起床時の冷たい牛乳飲用で対応している。天気の良い日には散歩や、毎日の体操を行い、出来るだけ身体を動かすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴日は決まっているが、本人の体調や希望により、随時調整を行っている。入浴を拒む利用者には、時間を置いて再度声掛けをしたり、個性に合わせて会話などで気分転換を図ってみたりもしている。	ホームの基本的な入浴パターンは週3回入浴であるが、毎日入る方が1名おり対応している。入浴を嫌がる時は、時間を置かず、「お茶がこぼれているから着替えをしましょう」と誘う。異性介助を嫌う方には、同性で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	うまく入眠出来ないような時はしばらく話し相手をしたり、温かい飲み物を提供してみたりと個々に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ノートを一人ひとり作成し、職員が共有している。薬の変更や受診時、医師からの指示を記入し、服薬後の経過に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを兼ねて、食事の配膳、下膳、食器洗い、玄関の清掃等を役割を持って生活している。色々な行事の参加も促し、意欲の向上、気分転換が図れるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや、地域内での行事に参加するなど、出来るだけ戸外に出かける機会を設けている。個々に希望する趣向品を購入するため、スーパーと一緒にいくなどの支援もしている。	理事長の強い思いで1日1回は外に出ることを実行している。近所の理容店へ歩いて出かける、ドライブしながら買い物に出かける、通院時家族と食事をしたり、お正月帰宅して来る方もある。雨の日は法人内を歩いて運動や体操をしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理している利用者もいるが、大抵の利用者は必要なものがある場合は施設の一時立替金で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者には勿論のこと、外部の方、家族へのつながりも大事にしている。手作りによる年賀状で身近な人に近況を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期の季節感を取り入れながら、手芸品や、その都度行ったスナップ写真、習字などの作品を廊下など目に付くところに飾ったり、貼り出したりしている。	太い杉材を使った柱と梁が、ぬくもりと懐かしさを感じさせてくれる。天窓から日差しが差し込み、落ち着いた雰囲気をかもし出している。ゆったりしたソファや畳の小上がりが用意されてある。スナップ写真、紙工芸が展示されており、行事の様子がわかる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士を組み合わせテーブルなどの配置換えをしたり、ホールのテレビなどの配置換えもしたり、楽しく過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から使い慣れた時計や手鏡などの日用品を入居の際に持ち込んで頂いている他、人形、写真など思い思いに飾って頂いている。中には仏壇を持ち込み拜んでいる方もいる。	部屋の入り口には名前と担当の職員の名前が明記されてある。思い出のある、時計、いす、人形、などが持ち込まれ、使いやすい居室作りがなされている。押入れは引き戸作りで中もきちんと整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室などは利用者がわかりやすいよう、マークや文字を見やすい位置に配慮し、自立した生活が送れるよう支援している。		